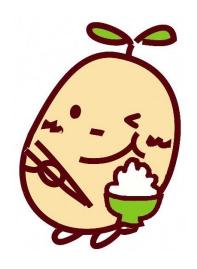
第3次 岡崎市食育推進計画

平成29年度~令和3年度

中間評価



岡崎市 健康・食育キャラクター まめ吉

令和2年3月 岡崎市食育推進会議

はじめに

岡崎市では、市民の皆さんが命と健康の基本である「食」についての意識を高め、健やかで心豊かな生活が送れるよう、(第1次)岡崎市食育推進計画(平成20年度~平成23年度)及び第2次岡崎市食育推進計画(平成24年度~平成28年度)、第3次岡崎市食育推進計画(平成29年度~令和3年度)に基づき、食育の推進に取り組んでいます。

第3次岡崎市食育推進計画においては、「食育は自らを育む"ひとづくり"」を基本理念に掲げ、これを実現するための市民の皆さんの目指すべき姿を、自ら食育を「学び」「実践し」「継承」することとし、市民一人ひとりの食育の実践だけでなく、その知識や技術、食文化や食事作法等を次世代や地域に継承していくことを目指して、様々な取組を実施してきました。さらに、新たな視点として、8つのプロジェクトと構成されるシンボルプロジェクト「おかざき食育やろまいプロジェクト」を掲げ、市民の皆さんに分かりやすい食育の推進に努めてきました。

令和元年度は、計画の中間年に当たることから、5つの重点事項に掲げる成果指標の達成 状況を確認し、食育に関わる様々な関係者が計画後期に取り組むべき事項などを整理しまし た。

なお、今回の中間評価に当たっては、10,600 名の方に御協力をいただきアンケートを実施いたしました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

アンケートから得られたデータは、今後の取組に活用してまいります。市民の皆さんにおかれましても、成果目標を達成するために必要な取組について、御提案がございましたら、 積極的にお寄せくださいますようお願いします。

令和2年3月

目次

はじめに

第1	第3次岡崎市食育推進計画について
1	基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2	市民の目指すべき姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3	計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
4	シンボルプロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第2	重点事項 数値目標に対する達成状況と評価・課題
1	野菜摂取量の増加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2	朝食を欠食する人の減少・・・・・・・・・・・・・・・ 6
3	地産地消の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
4	食品ロスの削減・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
5	食文化の保護継承・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第3	岡崎市健康・食育キャラクター「まめ吉」について
1	岡崎市健康・食育キャラクター「まめ吉」について・・・・・・・・・ 10
第4	重要業績評価指標(KPI)
	重要業績評価指標(KPI)・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第5	アンケート調査結果
1	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
2	調査結果のみかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
3	回答者の属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
4	取組、関心について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
5	食生活について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
6	次世代への食育について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
7	食と環境について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
8	食品の選択について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
\circ	今ウルについて

第1 第3次岡崎市食育推進計画について

1 基本理念

食を育むことは、命、心、愛、絆、信頼、人間関係を育み、未来も育みます。

食育は健全な社会をつくるための土台であり、健康、文化、環境、農業など私たちの生活の質全てに直結し、関与しています。

計画では、食を通じて、人と人とがふれあい、食をめぐる様々な問題について、ともに考え、ともに行動をすることができる「ひとづくり」を目指し、食育を推進しています。

基本理念 —

「食育」は 自らを育む "ひとづくり"

2 市民の目指すべき姿

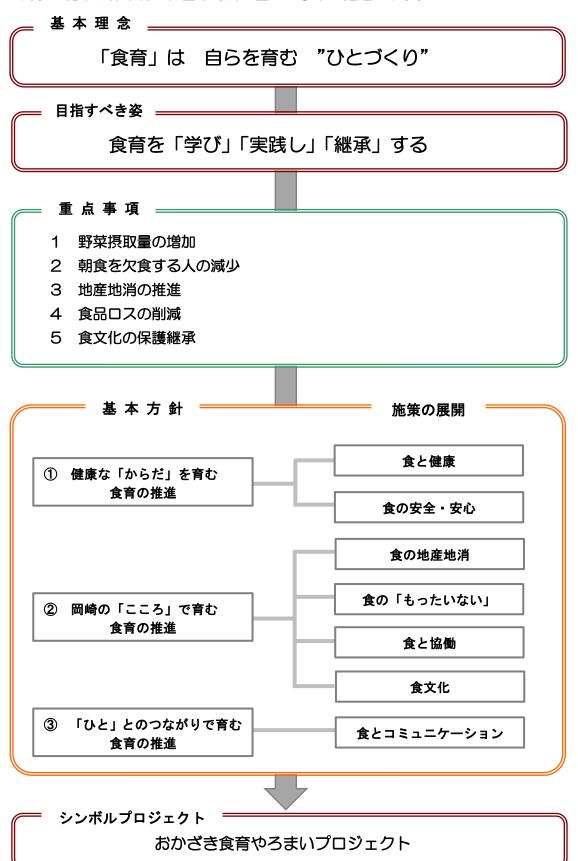
豊かな自然に恵まれた岡崎市では、四季折々の食材に恵まれ、長い年月を経て、伝統的な行事や作法と結びついた食文化が形成されてきましたが、その知識や技術、食文化や食事作法等を子どもや孫、地域等に継承していくことにより、家族や学校、地域、事業者及び関係団体などで食育情報を共有し、市全体で食育を継承していくことを目指しています。

目指すべき姿 _

食育を「学び」「実践し」「継承」する

3 計画の体系

食育の目指すべき姿の視点を共有するとともに、これまで個々に実施されていた食育 に関する施策を体系化し、基本方針に基づく事業を推進します。

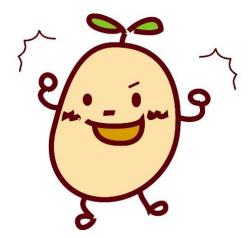


4 シンボルプロジェクト

第3次岡崎市食育推進計画で定める取組について、市民の皆さんへの分かりやすい 浸透を目的に三河弁の「やろまい」の「や」にかけて、整理しました。

おかざき食育やろまいプロジェクト





8つのプロジェクト

- **** やさいプロジェクト**
- ☆ はやね(早寝)はやおき(早起き)朝ごはんプロジェクト
- **>→** いいは(歯)プロジェクト
- ☆ めざせ 8 g ! 減塩プロジェクト
- **丫 お家でや**ろまいプロジェクト
- **Y** 宴会時やろまいプロジェクト
- ❤️八丁味噌プロジェクト
- **丫** 食育の環(8→∞)プロジェクト

第2 重点事項 数値目標に対する達成状況と評価・課題

5つの重点事項について、それぞれ数値目標を掲げています。

数値目標の基準値(平成 28 年度)、現状値(令和元年度)、目標値(令和3年度)を比較した評価、これまで実施してきた取組、今後取り組むべき課題を整理しました。

なお、現状値については、令和元年 10 月~11 月に実施した食育に関するアンケート調査(以下「調査」という。)によって得られた数値です(P16~参照)。

評価は、達成 改善: **愛**化なし: ◆ 後退: へ で表しています。 (改善率・後退率が±10%以内の場合を「変化なし」としています。)

重点事項1 野菜摂取量の増加

成果指標		基準値 H28	現状値 R1	目標値 R3	評価
成人1日当たりの	全体(一般+保護者)	212.8 g 236.9 g	212.7g 217.7g		<+
野菜摂取量	保護者	211.4 g	211.9g	350g以上	→
	大学生	189.8 g	188.2 g		→

評価

健康的な食生活の実践を目的としている指標です。

成人1日当たりの野菜摂取量は、目標値である350gを大きく下回っています。内訳を見ると、保護者、大学生は横ばいの状態ですが、一般で減少しています。また、調査によるといずれの対象も夕食に比べ、朝食と昼食の野菜摂取量が少ない傾向にあります。

野菜が不足しやすい理由は、「野菜の値段が高いから」、「調理に手間がかかるから」が前回同様、上位となっています。前回と比べると「調理に手間がかかる」と回答した人の割合は、一般で7.2 ポイント、保護者で13.4 ポイント増加しました。一方、「野菜の値段が高いから」と回答した人の割合は、一般で23.3 ポイント、保護者で25.5 ポイント減少しました。

主な取組

- 動機づけとなる覚えやすい標語普及
- おかざき健康マイレージ事業
- ・野菜をテーマとしたコンテスト等の実施
- ホームページ、チラシ、行事等における啓発
- 簡単野菜料理レシピの作成、紹介
- ・家庭菜園の支援
- 岡崎市健康づくりサポート施設登録推進事業(健康気配りメニュー提供の推進)
- ヘルシーメニュー推進事業(野菜たっぷりメニュー提供の推進)
- •「まめ吉」印(しるし)食品の活用推進
- まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)の発行

考察と今後の取組

前回調査で野菜摂取意識の高い人ほど野菜摂取量が多いことが明らかになったため、野菜を食べることを意識するためのシンボルプロジェクトである「やさいプロジェクト」を掲げ、野菜を食べること目指す「たすべジ」「朝ベジ」「3ベジ」等の標語の普及、「8のつく日は野菜を食べよう!」、「8月31日は、やさい(8・3・1)の日!」に取り組んできました。

野菜摂取意識と野菜摂取量の関係は、今回の調査からも前回と同様、野菜摂取意識の高い人ほど野菜摂取量が多い傾向が見られます。1日当たりの野菜摂取量の目標値を達成するためには、あと何グラム不足しているのかを具体的に示し、摂取量が少ない、朝食・昼食で野菜を食べることを意識できるよう啓発していくことが重要です。家庭の食事でプラスー皿野菜を食べる(たすべジ)ことや、朝食に野菜料理を食べる(朝べジ)を引き続き啓発していくほか、毎食野菜を食べるためには、飲食店や社員食堂等の給食施設と協働して、野菜料理を食べやすい環境を整備していくことも必要です。

野菜が不足しやすい理由の上位となっている項目については、内容に応じた対策を講じることが必要です。「野菜の値段が高いから」については、気候等による価格の変動を考慮し、比較的安い価格で手に入る旬の野菜の周知や料理の提案を関係団体とともに進めていくことが有効だと思われます。また、「調理に手間がかかるから」については、カット野菜や総菜などを活用し、手間をかけずに野菜を食べる方法の提案が考えられます。

*ヤやさいプロジェクト **

<u>Oベジファースト</u>

食事のときに野菜を最初に食べること。

Oたす<u>ベジ</u>

いつもの食事に野菜のおかずを1皿たすこと。

○朝ベジ

朝食に野菜を食べること。

<u>03ベジ</u>

朝食、昼食、夕食の3食野菜料理を食べること。

Oベジストック

家に野菜を常備すること。

Oベジトレ

好き嫌いなく野菜を食べられるようにするためトレーニングすること。 ベジ(野菜を食べること)だけでなく、トレーニング(運動)も組み合わせましょう。

〇岡ベジ

岡崎産の野菜のこと



成人1日当たりの 野菜摂取目標量 350g

重点事項2 朝食を欠食する人の減少

成果指標		基準値 H28	現状値 R1	目標値 R3	評価
	園児(4歳児)	5.3%	4.2%	2%以下	
	小学2年生	5.5%	3.7%	2%以下	
朝食を食べないことが	小学5年生	7.9%	9.1%	2%以下	*
朝長を長べないことがある人	中学2年生	12.2%	13.4%	5%以下	*
め る人	高校2年生	14.0%	16.4%	10%以下	*
	大学生	34.4%	40.9%	25%以下	1
	保護者	10.2%	10.3%	5%以下	→

食を通じて健康な体をつくるための指標です。

朝食を食べないことがある人は、園児(4歳児)と小学2年生で減少し改善していますが、他の学年や大学生で増加し、後退しています。調査から朝食を食べないことがある人の内訳を見ると「週に2~3回食べる」、「週に4~5日食べる」と回答している人の割合が高くなっています。

主な取組

- •「早寝早起き朝ごはん」の推進
- おかざき健康マイレージ事業
- ・栄養健康教育・相談の実施
- 簡単朝食レシピの作成、紹介
- 岡崎市健康づくりサポート施設登録推進事業(健康づくり情報提供の推進)
- ホームページ、チラシ、行事等における啓発
- ・まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)の発行

考察と主な取組

前回調査で朝食を食べるために必要なこととして「自分で朝食を用意する努力」、「早く寝る、早く起きる、よく眠る」ことを挙げた人が半数以上であったため、簡単朝食レシピの普及や「早寝早起き朝ごはん」の推進に取り組んできました。子どものころからの生活習慣の確立の一環として、園や学校とともに「早寝早起き朝ごはん」に取り組んだことが、園児や低学年の朝食欠食率の改善に一定の効果があったと考えられます。一方で学年が上がるほど、生活習慣を変えることが難しく、朝食欠食率の改善につながらなかったと考えられます。

今回の調査でも朝食を食べるために必要なこととして、「自分で朝食を用意する努力」、「早く寝る、早く起きる、よく眠る」ことを挙げた人が半数以上となっています。これまで同様、簡単に朝食を用意するための工夫の啓発や、園や学校等と連携して「早寝早起き朝ごはん」の規則正しい生活習慣の啓発を一層強化していくことが必要です。

また、「週に2~3回食べる」、「週に4~5日食べる」としている人には、あと1日朝食を食べられる日を増やす、「ほとんど食べない」という人には、まず1日からでも朝食を食べるといった取り組みやすい目標を持ってもらい、朝食を食べる習慣の底上げを図っていくことも重要です。

重点事項3 地産地消の推進

成果指標		基準値 H28	現状値 R1	目標値 R3	評価
地元(岡崎市・愛知県)産	全体(一般+保護者	24.2%	21.7%		
農産物を意識して購入して	一般	34.5%	27.5%	35%以上	
いる人	保護者	23.6%	20.7%		

岡崎市や愛知県産の農産物に対するこだわりを高め、地産地消を推進するための指標です。 地元産の農産物を意識して購入している人の割合は一般・保護者ともに減少しています。

調査によると地元産を含む国内産にこだわっている人は、約8割で前回調査から横ばいの 状況です。特に産地にこだわらない人の理由としては「産地でなく価格を優先している」の 割合が高くなっています。

主な取組

- ・岡崎市ブランド化推進品目のPR
- 岡崎市農林産物ブランド化推進シンボルマークの活用
- ・ 農産物直売施設の活用
- 農産物を活用したふれあいイベントの開催
- ・6次産業化の支援
- ・ 岡崎市援農ボランティア事業
- ホームページ、チラシ、行事等における啓発
- ・ 学校及び保育園給食における積極的使用
- ・ 地元食材を利用したコンテスト、料理教室等の開催
- ・ 家庭菜園の支援
- •「まめ吉」印(しるし)食品の活用推進
- まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)の発行

考察と今後の取組

農林産物ブランド化推進マスコットキャラクター(オカボー)による各種イベントでの農産物のPR、農産物直売施設の活用、地元食材を利用したコンテスト・料理教室等の開催、まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)への地産地消に関する記事掲載、民間による地産地消の商業普及、園・学校給食での地場産物の活用が推進されてきました。

調査結果から約8割の人が産地にこだわり地元産を含む国内産の農産物を選んでいる反面、 地元産へのこだわりが低くなっている要因として、「産地でなく価格を優先している」ことや、 国内産に対する安心・安全性を高く評価していることが考えられます。

地産地消の推進には、地産地消のメリットを意識した働きかけが必要です。比較的安価に 手に入る旬の農産物が新鮮で農産物本来の味わいを楽しめることや、生産者の顔が見えることで農産物に親しみが持てることなどを引き続き PR する取組が求められます。また、「輸送コストの削減」「輸送による環境負荷の軽減」「地域の農業の活性化」等に対する啓発を、次世代を担う子どもだけでなく、農産物を消費する世代に行っていくことも重要です。

重点項目4 食品ロスの削減

成果指標		基準値 H28	現状値 R1	目標値 R3	評価
むだや廃棄の少ない食事	全体(一般+保護者	21.7%	21.3%		\
づくりを積極的にしている人	一般	36.2%	27.7%	50%以上	×
	保護者	20.9%	20.1%		

食品ロスの削減を推進するための指標です。

むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的にしている人の割合は全体及び保護者では横ばい に推移していますが、一般では減少しています。

調査結果から、むだや廃棄の少ない食事づくりを意識している人(「積極的にしている」+「できるだけするようにしている」)の割合は、一般86.9%、保護者86.7、大学生73.6%となっており、一般と保護者では国の目標値である80%を上回っています。

主な取組

- ・環境教室、環境学習における啓発
- エコクッキング講座
- おかざきエコプロジェクト「もったいない!」コース
- 環境保全型農業の推進支援
- 動機づけとなる覚えやすい標語の普及
- ホームページ、チラシ、行事等における啓発
- ・まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)の発行

考察と今後の取組

食品ロス削減については、食事ができることに感謝し、食料資源を浪費しないという観点と、ごみの減量による環境への負荷の軽減の観点から取組を行ってきました。食品ロス削減のためのシンボルプロジェクトでは、「お家でやろまいプロジェクト」の取組として毎月8日の「冷蔵庫クリーンアップデー」、18日の「もったいないクッキングデー」などで定期的に食べ物の使い切りを呼びかけたり、「宴会時やろまいプロジェクト」の取組として、飲食店の協力を得ながら、宴会や会食で「注文しすぎない」「残さず食べる」ことを啓発してきました。

前回及び今回の調査から食品ロス削減に向けた取組をする市民は、約8割と高い傾向にあります。特に「残さないように食べる」人は、一般、保護者、大学生のいずれも7割以上となっています。誰もが意識できる「残さないように食べる」ことは、食のマナーにも通じるものとして継続的な啓発が重要です。

また、食事を作る人が「むだや廃棄の少ない食事づくり」に積極的に取り組めるよう、調査で5割程度の人が取り組んでいると回答している「作り過ぎない」に加え、「捨てる部分が少なくなるよう調理する」「食べ物の適切な保存方法を知る」「食べきれなかったら他の料理に作り替える」などの工夫についても啓発を行い、食料資源を大切にし、食品から出るごみを増やさないようにしてくことも必要です。

重点項目5 食文化の保護継承

成果指標		基準値 H28	現状値 R1	目標値 R3	評価
「煮味噌」を知っている人	全体(一般+保護者	43.8%	41.9%		K
	一般	49.6%	46.2%	60%以上	*
	保護者	43.4%	41.0%		×
地域や家庭で受け継がれて	全体(一般+保護者	22.8%	22.9%		\
きた伝統的な料理や作法等	一 般	22.6%	14.6%	50%以上	×
を継承し、伝えている人	保護者	22.8%	24.3%		

岡崎市の伝統的な食文化を次世代へと受け継いでいくための指標です。

調査によると「煮味噌」は、市民の2人に1人程度が「知っている」と回答していますが、 前回調査からは減少しています。

また、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合は、全体及び保護者では横ばいですが、一般では8ポイント減少しています。

主な取組

- ・保育園、幼稚園、学校における指導
- 食文化継承料理教室の開催
- ホームページ、チラシ、行事、イベント等における啓発
- ・郷土料理(菓子)の調査、情報提供
- まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)の発行

考察と今後の取組

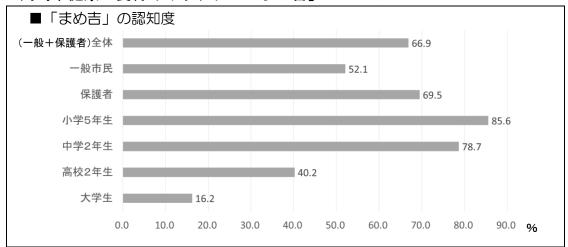
岡崎の郷土料理や菓子のうち、調査で認知度が高かったものは、飲食店や市販品で手に入りやすい「味噌煮込みうどん」「五平餅」「どて煮」「味噌田楽(こんにゃく)」「味噌田楽(豆腐)」「いがまんじゅう」でした。また、岡崎の郷土の料理として思い浮かべるものとしては、味噌料理が挙げられており、認知度の高い料理と合わせて、岡崎市の豆味噌文化が引き継がれてきた結果であると考えられます。

シンボルプロジェクトの一つである「八丁味噌プロジェクト」のもと、豆味噌を使った料理を再認識できる機会を保育園、幼稚園、学校、家庭、地域と連携して充実していくことが必要です。指標となっている「煮味噌」については、様々な食材を一皿で摂取できる、八丁味噌を使ったおすすめ料理として、家庭で作ることを推奨していくほか、時代に合った「煮味噌」のアレンジメニューを保護継承の担い手となる若い人などと検討することなどにより認知度を高め、豆味噌文化の保護継承の一助としていくことが必要です。

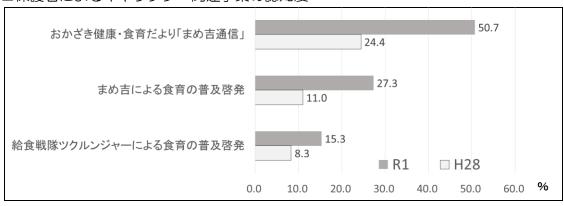
また、岡崎市の歴史や文化の中で育まれてきた、郷土料理を研究し情報提供する取組も食文化の保護継承のためには重要であると考えます。

第3 岡崎市健康・食育キャラクター「まめ吉」について

1 岡崎市健康・食育キャラクター「まめ吉」について



■保護者によるキャラクター関連事業の認知度



評価

岡崎市健康・食育キャラクター「まめ吉」の認知度は 66.9%で、市民の3人に2人以上に認知されているという結果でした。特に「まめ吉通信」を配布している小学5年生、中学2年生と保護者で高い傾向がみられました。

また、保護者によるキャラクター関連事業の認知度は、策定時(H28)と比較して2倍以上に増加しています。

主な取組

- 各種イベントへの出演
- SNS(ツイッター、インスタグラム、フェイスブック)の運用
- ・おかざき健康・食育だより「まめ吉通信」を年長児、小中学生、健康づくりサポート施設 などに配布

考察と今後の取組

健康・食育キャラクター「まめ吉」を積極的に活用したことで、「まめ吉」の認知度は高い 結果となっていますが、国や市が行っている取組に関する認知度はキャラクター関連事業を 除く全ての項目において後退しています。そのため、各種イベント等にキャラクターを効果 的に出演させ、食育を身近に感じ、楽しく学び、参加できる機会を提供するとともに、その 機会を通して食育の実践につなげる方策が必要となります。

今後は、まめ吉の認知度が高い小中学生、保護者に対しては引き続きキャラクターを活用 した情報発信、啓発の充実を図っていくとともに、認知度が低い世代に対しても食育に親し みやすい方策の一つとしてキャラクターの効果的な活用を検討していきます。

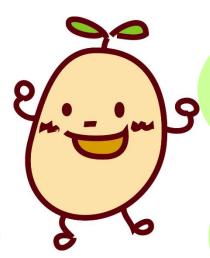
岡崎市健康・食育キャラクター「まめ吉」です。

岡崎市生まれのマメ科の男の子(推定5歳)。みんなの元気と健康づ くりを応援するよ。

【プロフィール】

誕牛日 12月12日

特技 まめ吉体操 出会った人を笑顔に できる



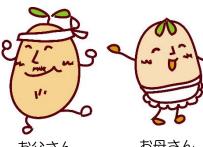
趣味 健康と食育について

みんなに伝えること

好きな食べ物 八丁味噌 岡崎産の野菜と果物

岡崎市健康・食育キャラクター まめ吉

【まめ吉家族】



お父さん (まめ夫)



お母さん (まめ子)



いもうと (まめみ)



おじいちゃん (まめ之助)



おばあちゃん (まめ乃)

第4 重要業績評価指標(KPI)

第3次岡崎市食育推進計画策定時、中間評価時の重要業績評価指標です。

基本方針① 健康な「からだ」を育む食育の推進 KPI

■ 食と健康

取組内容	KPI	策定時	中間評価時
健康づくりサポート施設登録推進事業における「健康 気配りメニュー提供」施設の増加	・野菜から食べよう"ベジファースト"100施設・野菜たっぷりメニュー 100施設・栄養成分表示 150施設	10.施設(H27) 17 施設(H27) 23 施設(H27)	6施設(H3O) 34施設(H3O) 33施設(H3O)
減塩の普及啓発	・特定給食施設における減塩啓発 実施	O施設(H28)	O 施設(R1)
しっかり噛むこと の重要性の周知	・「噛ミング30(サンマル)」認知度 25%	5.5%(H28)	4.8%(R1)
早寝・早起き・朝 ごはんの推進	・「早寝・早起き・朝ごはん」認知度 50%	30.0%(H28)	24.0%(R1)

■ 食の安全・安心

取組内容	KPI	策定時	中間評価時
食の安全を確保するため、HACCP方式による衛生管理システムを導入する施設及び自主的衛生管理が優秀と求められる施設の増加	 ・HACCP 方式による衛生管理を導入した施設の認定数 10 施設 ・自主的な食品衛生管理が優秀な施設の認定数 150 施設 	2 施設(H27) 33 施設(H27)	3施設(H3O) 57施設(H3O)
食の安全性に関す る情報提供及び意 見交換(リスクコ ミュニケーショ ン)の実施	・岡崎市食の安全・安心推進協議会の開催 2回	2 🛛 (H28)	2 🛛 (H30)
食品衛生意識の向 上	・「食品衛生月間」認知度 25%・「給食戦隊ツクルンジャー」認知度 10%	6.6%(H28) 8.7%(H28)	5.7%(R1) 13.7%(R1)

基本方針② 岡崎の「こころ」を育む食育の推進 KPI

■ 食の地産地消

取組内容	KPI	策定時	中間評価時
	・「岡崎市農林産物ブランド化推進品目」認知度 10%	2.0%(H28)	2.4%(R1)
	・地元農産物心れあいイベントの開催 実施	農林曉祭•各種	農林産物ブラン
		フェア (ぶど	ド化推進マスコ
		う・自然薯・い	ットキャラクタ
		ちご・畜産・な	ー(オカボ―)
地二郎玄伽のDD		す・花き・植	による各種イベ
地元農産物のPR		木)、アユつか	ントでの農産物
		み、枝豆まつ	のPR(H30)
		り、夏休み・冬	
		休み農産物産地	
		ツアー(H28)	
	・地元農産物を使用した「まめ吉」印(しるし)	8(H28)	8(H29)6(H30
	食品 增加)承認数
	・援農ボランティアマッチング日数 増加	156 ⊟(H27)	816 🗏 (H30)
地元農産物の理解	・地元食材を利用したコンテスト 実施	学校給食メニュ	学校給食メニュ
地元辰座物の理解 促進		ー、ベジタブル	ー、ベジタブル
المحالا		スイーツ、赤い	スイーツ(R1)
		糸レシピ(H28)	
家庭菜園の支援	・家庭菜園等で野菜作りしている人 50%	26.4%(H28)	24.9%(R1)
学校及び保育園の	・学校給食における地元農産物使用割合(金額べ	市内産 4.7%	市内産 5.8%
給食における地場	・子牧和良にのける地儿長座物使用剖口(並領へ	市外県内産	市外県内産
産物の活用		32.2%(H27)	28.4%(H30)

■ 食のもったいない

取組内容	KPI	策定時	中間評価時
ごみ(食品廃棄)の減量	・エコ・クッキング講座の開催 実施	4 🗖 (H28)	O □(H30)
	・「宴会時やろまいプロジェクト」認知度 10%	0% (H28)	0.3%(R1)

■ 食と協働

取組内容	KPI	策定時	中間評価時
食育推進ボランティアの育成と活動 支援	・ボランティア登録者数 増加	個人 64 人 団体 3(H27)	個人 68 人 団体 4(H3O)
関係団体・企業等との協働	・関係団体、企業、ボランティア等と連携した食 育関連事業の実施 増加	42 🛛 (H28)	34 @(H30)

■ 食文化

取組内容	KPI	策定時	中間評価時
学校・保育園・こ ども園における食 育の推進	・食文化の普及食に関する指導(食事作法マナー等)の指導 全校、全園実施 ・給食の献立に行事食 全校、全園実施	全校、全園実施 (H28) いがまんじゅう (H28)	全校、全園実施 (H3O) 全校、全園実施 (H3O)
郷土料理(菓子) の調査、情報提供	・調査数 毎年度 1~2	煮味噌、味噌田 楽、鮎の煮浸 し、焼味噌、い がまんじゅう、 あわゆき(H28 調査済)	法蔵寺団子 (H29 調査済) みかわあえ (H30 調査済)

基本方針③ 食の知識で「ひと」を育む食育の推進 KPI

■ 食とコミュニケーション

取組内容	KPI	策定時	中間評価時
学校給食メニュー コンクール	・応募者数 増加	97点(H27)	87点(H30)
食育ポスターコン クール	・応募者数 増加	2,207点(H27)	2,350点(H30)
まめ吉通信(おか ざき健康・食育だ より)の発行	・発行回数 年4回	年4回	年4回
シンボルプロジェ クトの周知・啓発	「おかざき食育やろまいプロジェクト」認知度増加	0%(H28)	2.1%(R1)

第5 アンケート調査結果

第3次岡崎市食育推進計画の中間評価として実施した令和元年度の結果を始め、平成21年度、平成22年度、平成26年度、平成28年度の結果も併せてまとめました。

1 調査の概要

(1) 調査時期 令和元年 10月~11月

(2) 調査対象者等

区分	調査方法	配布数	有効 回収数	有効 回収率 (%)
一般	• 20 歳以上の方に対し、無作為に直接配布 し、郵送又は直接回収	2,344	1,074	45.8
保護者	・各園、学校で配布し、回収	7,371	6,075	82.4
高校2年生	市立保育園、幼稚園:全園	966	736	76.2
中学2年生	私立保育園、幼稚園:希望園 小学2年生・5年生、中学2年生:選抜校	538	464	86.2
小学5年生	高校2年生:希望校	1,659	1,418	85.5
小学2年生	園児(4歳)及び小学2年生本人のことは保護	1,319	1,198	90.8
園児(4 歳)	者が回答	2,889	2,262	78.3
大学生	• 各学校で配布し、回収	1,040	833	80.1
	合計	18,126	14,060	77.6

回答者: 10,600 人

2 調査結果のみかた

- (1) Nは質問に対する回答者数(人)を示します。
- (2) 集計結果はすべて、小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。
- (3) 複数回答の設問の場合、集計結果の合計が100%又は回答数を超えることがあり、回答数の合計を回答者数(N)で割った比率をMT(%)で示します。
- (4) 本文中の質問の選択肢について、長い文は簡略化しているところがあります。

3 回答者の属性

(1) 性別

単数回答

N: 一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人 高校 2 年生 736 人 中学 2 年生 464 人 小学 5 年生 1,418 人 小学 2 年生 1,198 人 園児 2,262 人

区分	男性	女性	不明•無回答
一般	32.2%	67.4%	0.4%
保護者	5.3%	94.4%	0.2%
大学生	43.5%	56.3%	0.2%
高校2年生	61.7%	37.9%	0.4%
中学2年生	52.2%	47.4%	0.4%
小学5年生	49.9%	49.2%	0.8%
小学2年生	47.3%	48.6%	4.1%
園児(4歳)	50.4%	46.9%	2.7%

(2) 年代

単数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人

区分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代 以上	不明•無回答
一般	6.7%	15.9%	19.2%	19.4%	20.4%	18.2%	0.3%
保護者	3.3%	42.9%	48.2%	4.5%	0.3%	0.1%	0.7%

(3) 家族構成

単数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人

区分	三世代 世帯	親と子 (二世代世帯)	夫婦のみ	一人 暮らし	その他	不明• 無回答
一般	10.1%	55.0%	23.4%	8.6%	2.1%	0.7%
保護者	13.7%	81.4%			2.8%	2.1%

(4) 職業

単数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人

区分	農林業	自営業 (農林業以外)	自由業	会社員	公務員	パート・ アルバイト
一般	1.1%	3.5%	0.9%	29.8%	3.4%	20.1%
保護者	0.3%	4.2%	1.3%	23.2%	4.6%	42.4%

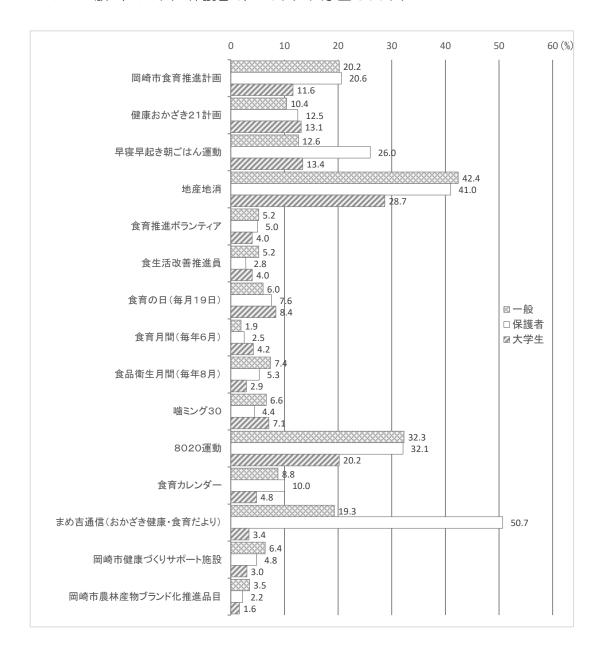
区分	家事専業	学生	無職	その他	不明• 無回答
一般	16.0%	1.2%	21.0%	1.9%	0.9%
保護者	18.8%	0.1%	2.8%	1.7%	0.7%

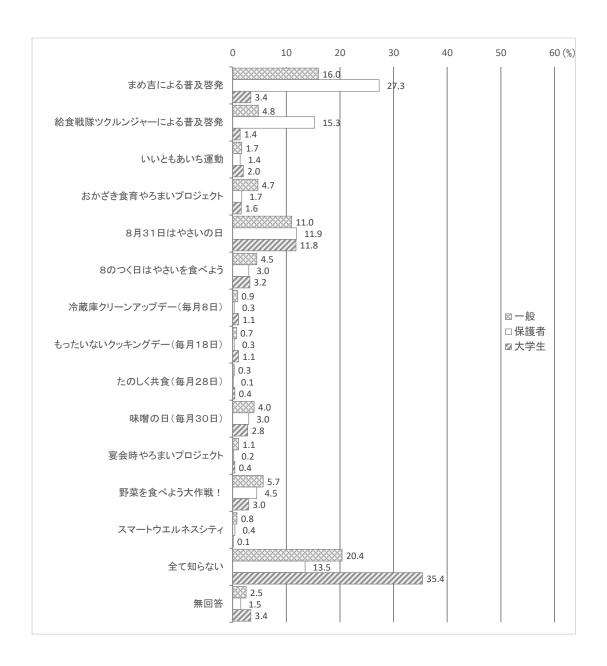
4 取組、関心について

- (1) 行政の取組の認知度
 - 国や市で行っている取組を知っていますか。

複数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人

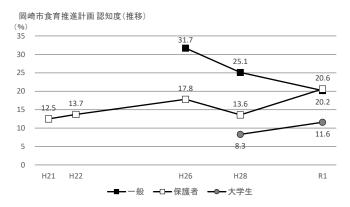


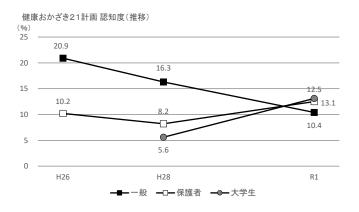


一般は「地産地消」が最も高く、次いで「8020 運動」が高くなっています。保護者では「まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)」が最も高く、次いで「地産地消」が高くなっています。「地産地消」は一般・保護者ともに約4割の認知度ですが、「まめ吉通信」の認知度は一般で約2割、保護者で約5割と、保護者で高くなっています。

大学生は約3分の1が「全て知らない」と回答し、「地産地消」「まめ吉通信」「8020運動」の認知度がいずれも一般・保護者に比べて10ポイント以上低くなっています。

■ 岡崎市食育推進計画・健康おかざき 21 計画 認知度(推移)

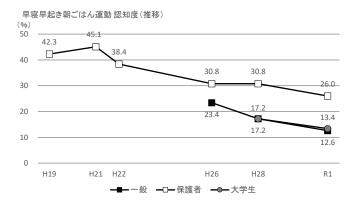




平成 20 年3月に岡崎市食育推進計画 (第1次)を策定して以来、 食育推進計画の認知度は保護者・ 大学生でおおむね上昇していますが、一般では低下しています。また、「健康おかざき 21 計画」の認知度も同様の傾向を示しています。す。

食育推進計画の大学生の認知度 は一般・保護者に比べて低くなっ ており、今後は若い世代の市民の 認知向上を図る必要があります。

■ 早寝早起き朝ごはん運動 認知度(推移)

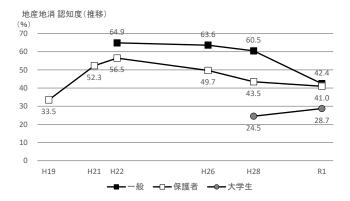


早寝早起き朝ごはん運動の認知 度は低下傾向にあり、今回調査で は保護者で3割未満、一般・大学 生で1割台と低い水準となってい ます。

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。

家庭における食事や睡眠などの 乱れは、個々の家庭や子どもの問題 として見過ごすことなく、社会全体 の問題としてとらえ、地域によって 一丸となって取り組むことが重要 です。

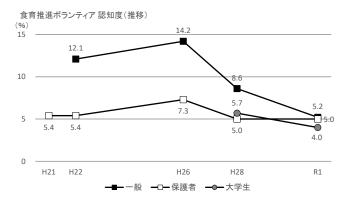
■ 地産地消 認知度(推移)



認知度は、一般・保護者で低下傾向を示しています。特に一般では6割台で推移していた認知度が今回調査では約4割と20ポイント以上低くなっています。また、大学生では認知度は上昇していますが、一般・保護者に比べて10ポイント以上低くなっています。

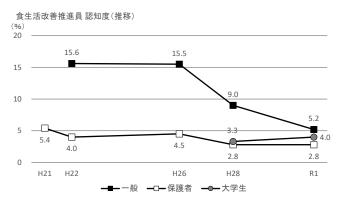
地産地消を意識し、数値目標と している地元の農産物を意識して いる人の増加を図ります。

■ 食育推進ボランティア 認知度(推移)

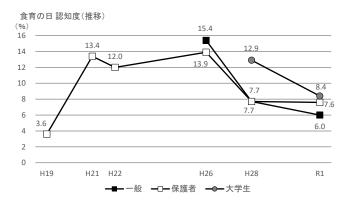


食育推進ボランティア、食生活 改善推進員ともに認知度はおおむ ね低下しています。市民一人一人 の食育の実践は、食育推進ボラン ティア等が支援し、協働すること でより効果的な取組につなげるこ とができます。食育を支援するた めのネットワーク作り、ボランティアを育成し、認知度の向上を図 ります。

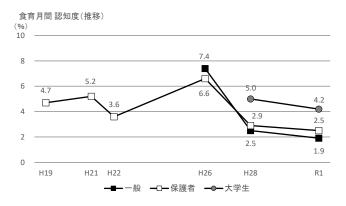
■ 食生活改善推進員 認知度(推移)



■ 食育の日(毎月19日) 認知度(推移)



■ 食育月間(毎年6月) 認知度(推移)

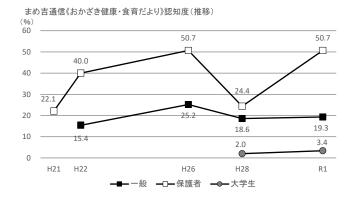


食育の日、食育月間ともに認知 度は低下しています。

大学生での認知度は一般・保護者をやや上回っており、若い世代への啓発が進んでいることが伺われます。特に、保育園や幼稚園では、食育の日にちなみ、関連する行事を開催するなどの取組が行われている園もあります。

食育月間や食育の日をきっかけ に、家庭、友人等と食育にちなん だ会話がなされるよう情報提供等 に努めます。

■ まめ吉通信(おかざき健康・食育だより)



認知度(推移)

健康づくりや食育情報を掲載した「まめ吉通信」(旧:食育だより)を年4回発行しています。市内の保育園幼稚園年長児から中学生までと、健康づくりサポート施設登録店に配布し、市のホームページでも紹介しています。

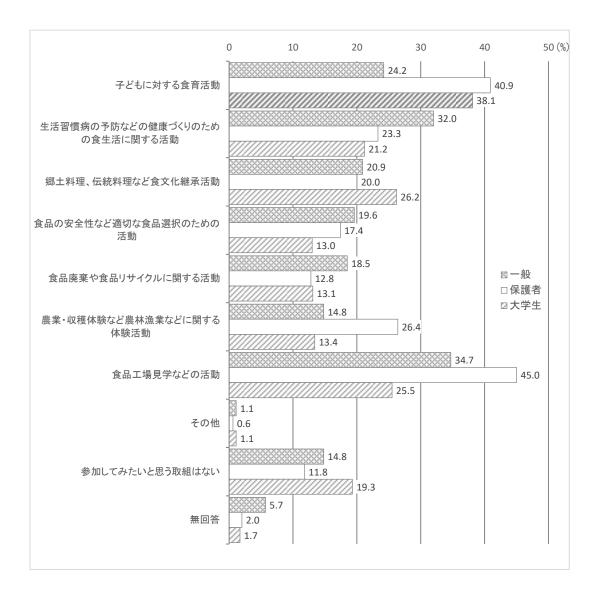
認知度は「まめ吉通信」として リニューアルされた直後の H28 年調査で低下しましたが、今回の 調査では上昇し、保護者で約5割 に回復しています。一方、一般で は2割未満、大学生では1割未満 と低い水準にあります。子どもを 通じた食育の情報発信源として、 今後一層の周知と内容充実を図り ます。

(2) 食育に関する取組への参加意欲

■ 国や自治体、ボランティア、NPO、企業などの食育に関する取組で、参加してみたいものはありますか。

3つまでの複数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人



一般・保護者ともに「食品工場見学などの活動」が最も高くなっています。大学生では「子どもに対する食育活動」が最も高く、次いで「郷土料理、伝統料理など食文化継承活動」が高くなっていますが、「参加してみたい取組はない」も約2割と高くなっています。

5 食生活について

- (1) 朝食の欠食割合
 - ふだん朝食を食べていますか。

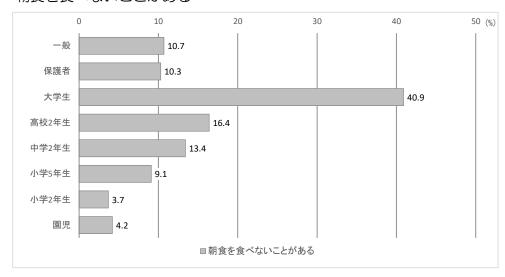
単数回答

N: 一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人 高校2年生 736 人 中学2年生 464 人 小学5年生 1,418 人 小学2年生 1,198 人 園児 2,262 人



朝食を食べないことがある

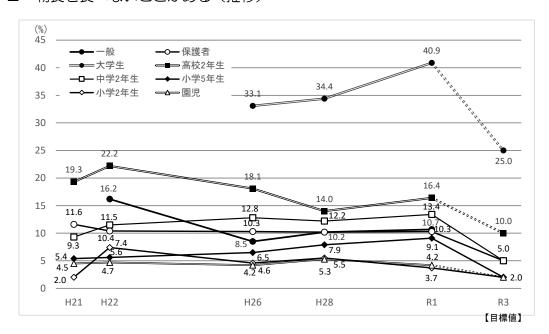
■ 朝食を食べないことがある



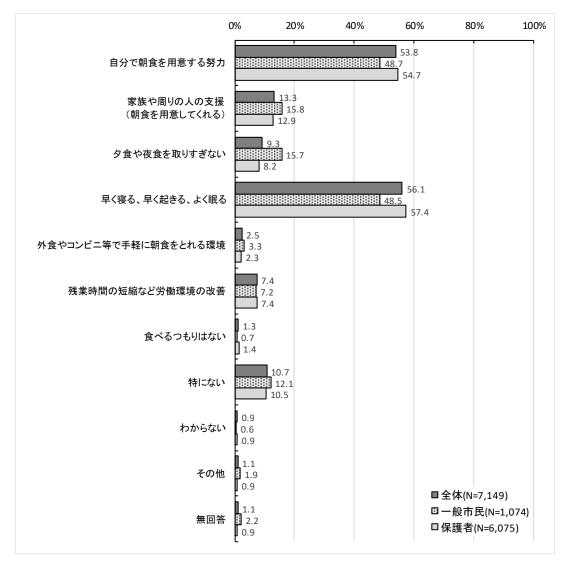
朝食を食べないことがある児童・生徒は、学年が上がるに従い上昇しており、特に大学生では約4割と高くなっています。

前回調査と比較すると、園児と小学2年生を除く全ての層において、朝食を食べないことがある人の割合が増加しています。

■ 朝食を食べないことがある(推移)



■ 朝食を食べるために、どのようなことが必要ですか

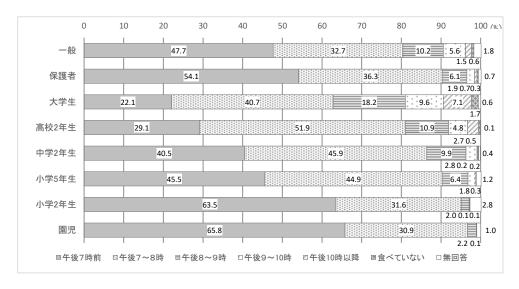


(2) 夕食時間

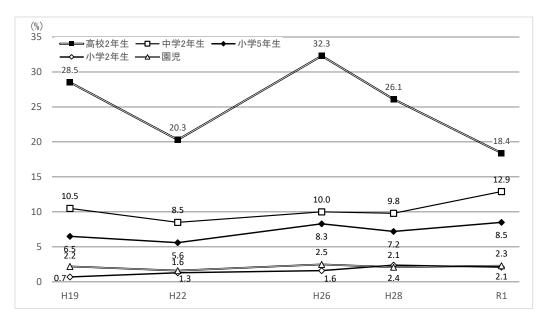
■ 夕食を何時頃食べますか。

単数回答

N: 一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人 高校2年生 736 人 中学2年生 464 人 小学5年生 1,418 人 小学2年生 1,198 人 園児 2,262 人



■ 午後8時以降に夕食を食べる児童・生徒(推移)



夕食を食べる時間は、学年が上がるに従い遅くなっています。特に大学生では午後8時 以降に夕食を食べる人の割合は4割近くとなっています。

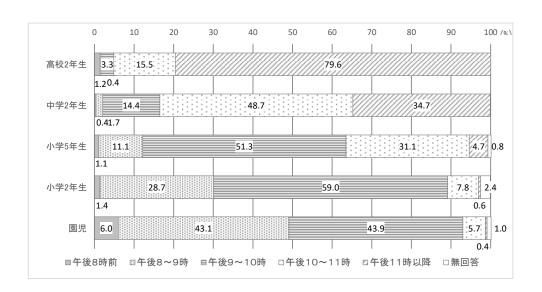
前回調査と比較すると、午後8時以降に夕食を食べる人の割合は、高校2年生で減少し、 園児と小学2年生では横ばいですが、小学5年生と中学2年生では増加しています。

(3) 就寝時間

■ 何時頃寝ますか。

単数回答

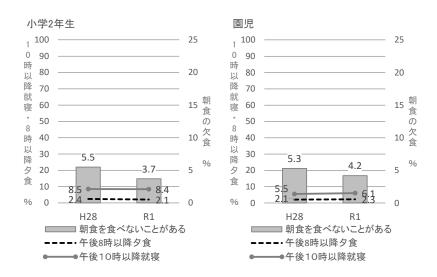
N: 高校2年生736人 中学2年生464人 小学5年生1,418人 小学2年生1,198人 園児2,262人



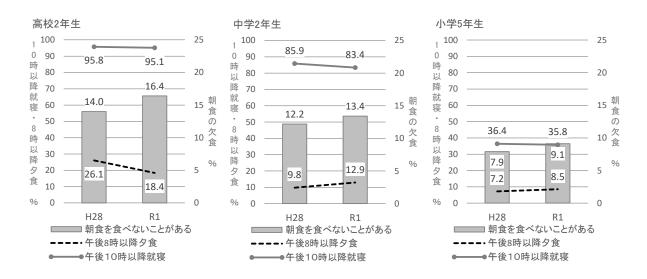
高校2年生は、午後11時以降に就寝する生徒が約8割と高くなっています。就寝時間は、普段の活動時間の影響を受けており、園児から高校2年生になるに従い、徐々に遅くなっています。

(4) 朝食の欠食×夕食の時間×就寝する時間(推移)

ア 朝食の欠食が改善している学年



イ 朝食の欠食が後退している学年



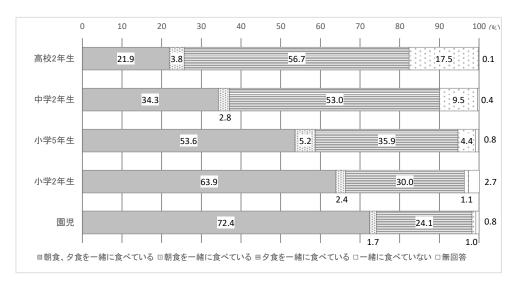
朝食の欠食が改善している学年と後退している学年とで、他の生活リズムの状況(午後 8時以降の夕食、午後 10 時以降の就寝)の推移をみましたが、前回調査から今回調査に かけては特に相関はみられませんでした。

(5) 家族との食事

■ 家族と一緒にごはんを食べていますか。

単数回答

N: 高校2年生736 人 中学2年生464 人 小学5年生1,418 人 小学2年生1,198 人 園児2,262 人



学年が上がるに従い、「朝食、夕食を一緒に食べている」が低くなり、「夕食を一緒に食べている」及び「一緒に食べていない」が高くなっています。

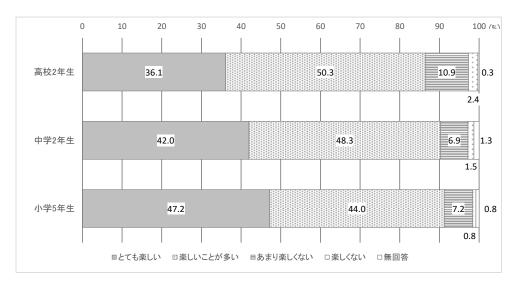
これは、通学距離や部活動といった、生活スタイルが変化していくことが要因と考えられます。

(6) 食事の時間の楽しさ

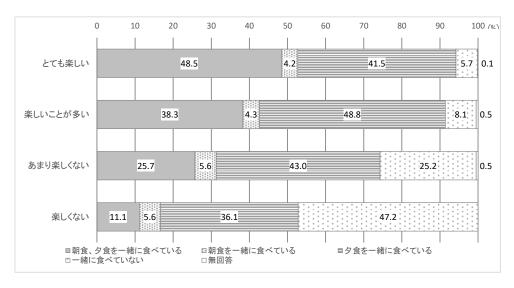
■ 家での食事の時間は楽しいですか。

単数回答

N: 高校2年生736人 中学2年生464人 小学5年生1,418人



■ 「家での食事の時間は楽しいですか」×「家族と一緒にごはんを食べていますか」



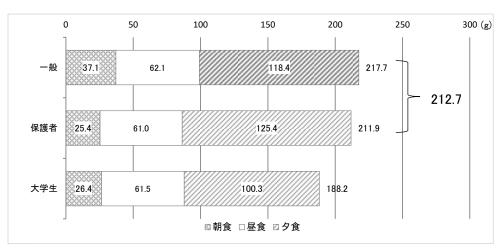
学年が上昇するに従い、「あまり楽しくない」「楽しくない」が若干増加しています。 食事の時間の楽しさ別で共食(家族と食事をともにすること)の状況をみると、「とて も楽しい」「楽しいことが多い」と感じている人では家族と一緒に食事をしている人が9 割以上ですが、「あまり楽しくない」と感じている人では共食は7割台、「楽しくない」と 感じている人では共食は5割台と低くなっています。食事の楽しさには、家族そろって食 事をすることが大きく関係しています。

(7) 1日当たり野菜摂取量

■ 野菜料理をどのくらい食べますか。

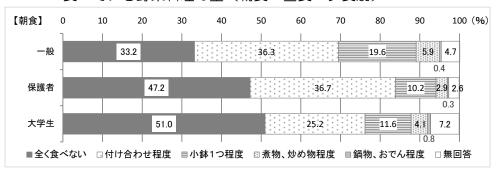
単数回答

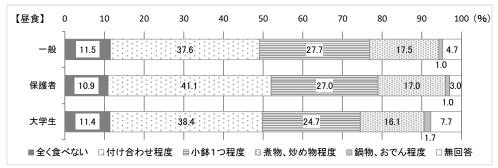
N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人

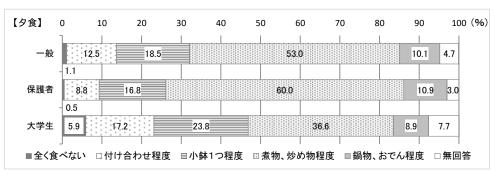


※無回答者は集計に含めていません。

■ 食べている野菜料理の量(朝食・昼食・夕食別)

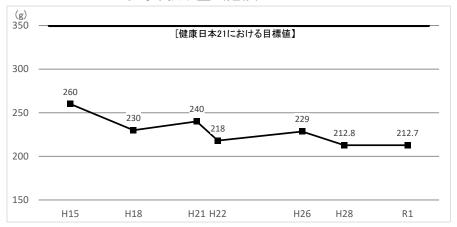






■ 1日当たり野菜摂取量(推移)

【一般十保護者】

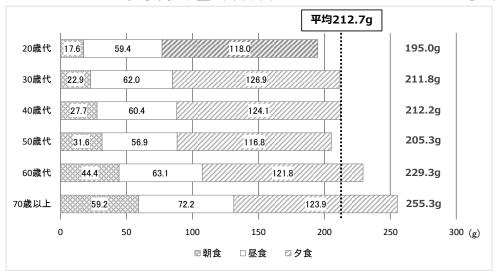


1日当たりの野菜摂取量は一般 217.7g、保護者 211.9g、大学生 188.2g となっています。一般と保護者では 212.7g であり、国(健康日本 21) の野菜摂取量の目標である 350g と比較して大きく不足しています。

前回調査同様、朝食、昼食の野菜摂取が少ない傾向があります。特に朝食では野菜料理を全く食べない人の割合が一般で33.2%、保護者47.2%、大学生51.0%と高いです。

■ 1日当たり野菜摂取量(年代別)

【一般十保護者】



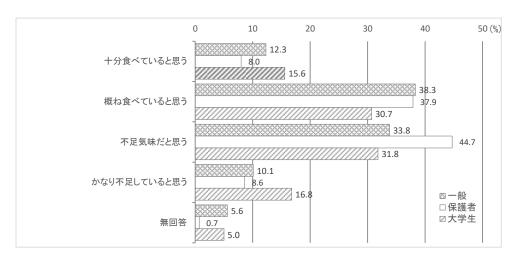
年代が上がるにつれて野菜摂取量が増加する傾向がみられますが、いずれの年代においても 野菜摂取量は目標量と比較して大きく不足しています。

(8) 野菜摂取意識

■ 野菜を十分食べていると思いますか。

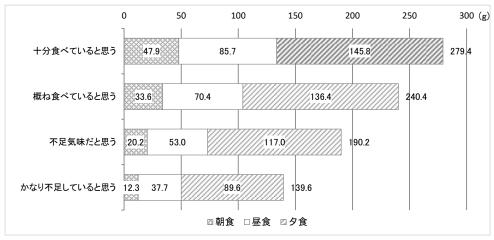
単数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人



■ 「野菜摂取量」×「野菜摂取意識」





※「野菜摂取量」の無回答者は集計に含めていません。

野菜を「十分食べていると思う」人の割合は1割台程度と低く、「不足気味だと思う」 人は3割以上と高くなっています。

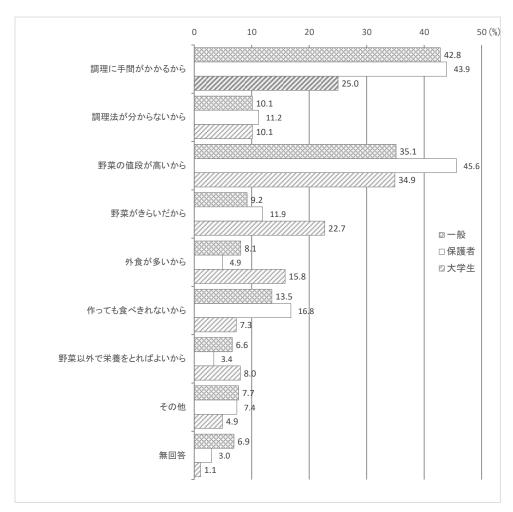
野菜の摂取意識別で1日の野菜摂取量をみると、摂取意識の高い人ほど1日の摂取量は多くなっていますが、十分食べていると思っている人でも平均279.4gであり、目標値の350gには大きく不足しています。

(9) 野菜摂取不足理由

■ 野菜が不足しやすい理由として考えられるのは何ですか。

複数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人



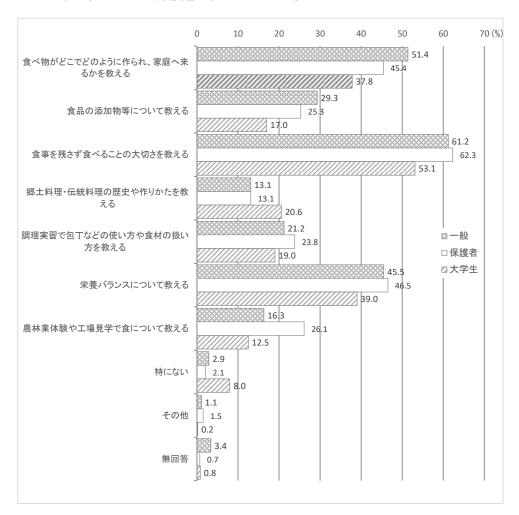
「野菜の値段が高いから」「調理に手間がかかるから」が高く、一般・保護者・大学生のいずれにおいても上位2位を占めています。

値段や調理の手間、好き嫌いなどにかかわらず、必要量の野菜を摂取することの重要性を啓発する必要があります。

6 次世代への食育について

- (1) 園・学校での食育に望むこと
 - 保育園・幼稚園・学校での「食育」にどのような事を望みますか。 3つまでの複数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人



「食事を残さず食べることの大切さを教える」が一般・保護者・大学生ともに最も高く、次いで「栄養バランスについて教える」「食べ物がどこでどのように作られ、家庭へ来るかを教える」が高くなっています。いずれも計画の重点事項である「食品ロスの削減」「野菜摂取量の増加」「地産地消の推進」につながるもので、数値目標達成のための土台づくりとして重視する必要があります。

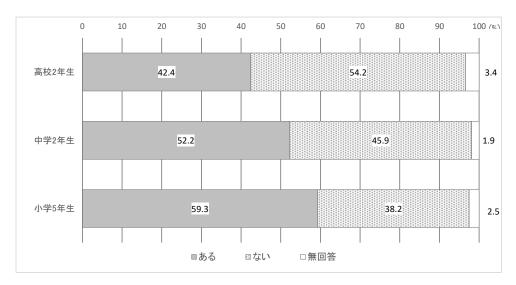
また、大学生では「郷土料理・伝統料理の歴史や作りかたを教える」がやや高く、若い 世代の郷土料理に対する関心が比較的高いことがうかがえます。

(2) 子どもの得意料理

■ 自分ひとりで作ることができる得意な料理はありますか。 (あると回答した児童・生徒)

単数回答

N: 高校2年生736人 中学2年生464人 小学5年生1,418人



具体的な料理名(主なもの)

高校2年生:チャーハン、卵焼き、目玉焼き、オムライス、クッキー、

カレーライス

中学2年生: 卵焼き、目玉焼き、カレーライス、チャーハン、味噌汁、

クッキー、オムライス

小学5年生: 卵焼き、目玉焼き、カレーライス、味噌汁、スクランブルエッグ、

ホットケーキ

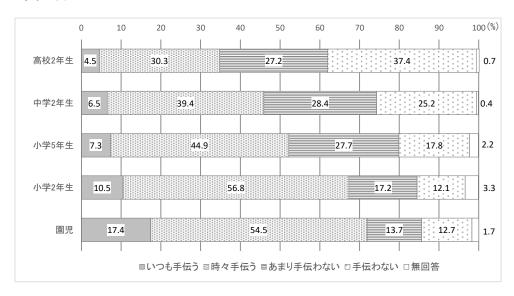
(3) 家での手伝い

■ 家でどんなことを手伝っていますか。

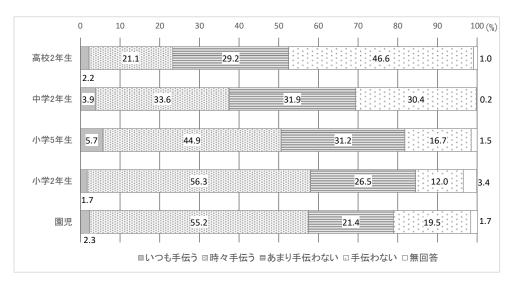
単数回答

N: 高校2年生736 人 中学2年生464 人 小学5年生1,418 人 小学2年生1,198 人 園児2,262 人

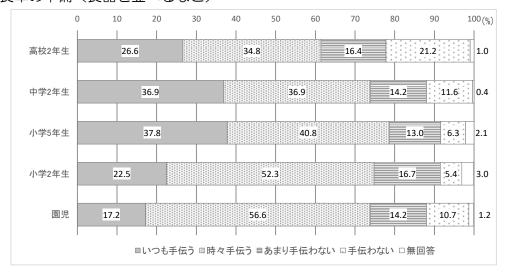
■ 買い物



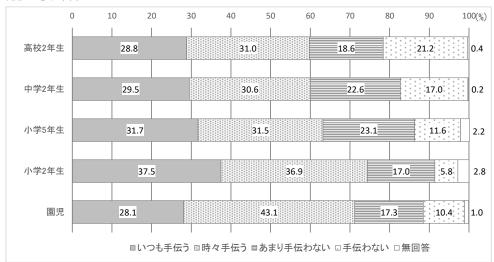
■ 料理の手伝い



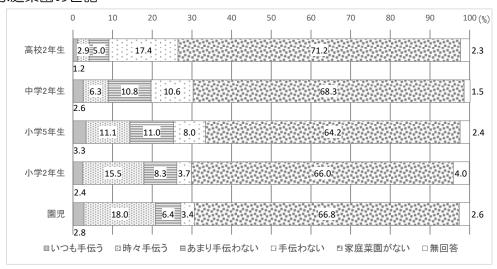
■ 食卓の準備(食器を並べるなど)



■ 食器の後片付け



■ 家庭菜園の世話

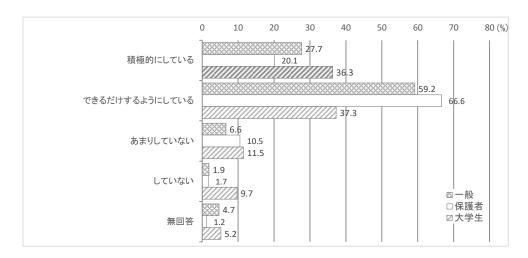


家での手伝いは、学年が上がるに従い、手伝うことが少なくなる傾向にあります。 「家庭菜園がない」という家庭は6割以上となっています。

7 食と環境について

- (1) 食品ロスの削減を意識した取組
 - 食べ残しなどのむだを減らしたり、廃棄の少ない食事づくりをしていますか。 単数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人



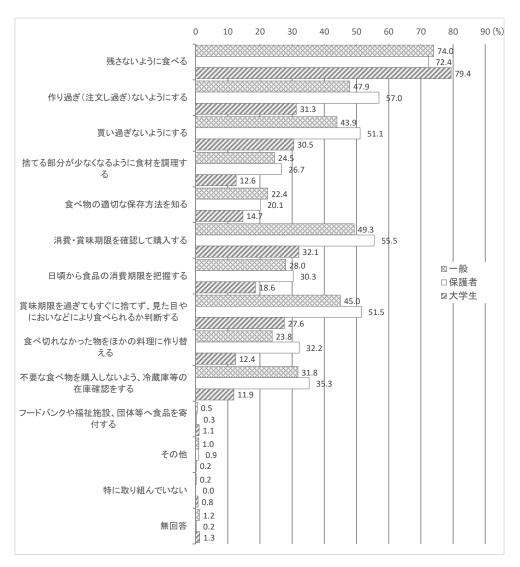
食品ロスの削減を意識した取組を『している』(「積極的にしている」「できるだけするようにしている」の計)人は、一般・保護者で8割以上、大学生で7割以上となっています。

大学生は一般・保護者に比べて『している』の割合は低いものの「積極的にしている」の割合は高くなっています。また、「していない」の割合も一般・保護者より高いことから、大学生ではしている人としていない人とがよりはっきりと分かれていることがうかがえます。

(2) 食品ロスの削減の取り組みの内容

■ 食べ残しや食品廃棄を減らすためにどのようなことに取り組んでいますか。 複数回答

N:一般 933 人 保護者 5,264 人 大学生 613 人



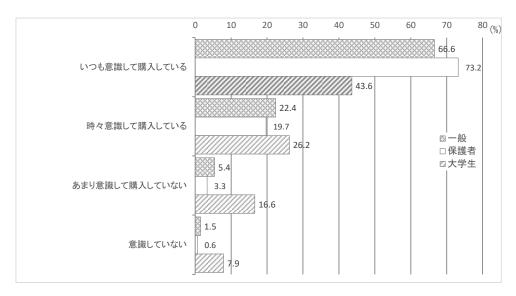
「残さないように食べる」が一般・保護者・大学生のいずれも7割以上で最も高く、2 位以下を 10 ポイント以上上回っており、最も取り組みやすい行動であることがうかがえます。他の上位4項目は、一般・保護者・大学生のいずれも「消費・賞味期限を確認して購入する」「作り過ぎ(注文し過ぎ)ないようにする」「賞味期限を過ぎてもすぐに捨てず、見た目やにおいなどにより食べられるか判断する」「買い過ぎないようにする」が占めています。

「残さないように食べる」は大学生が一般・保護者を上回っていますが、他の上位4項目は全て大学生が一般・保護者を約20ポイント下回っています。食品ロスの削減のための取組方法について、若い世代に対して周知していく必要があります。

8 食品の選択について

- (1) 食品表示に対する意識
 - 食品の購入時、食品表示を意識していますか。単数回答

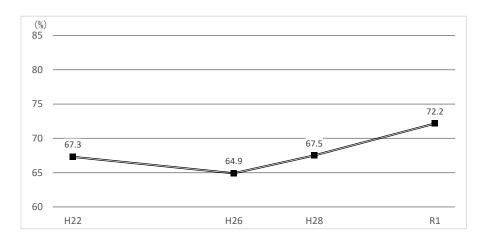
N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人



「いつも意識して購入している」が最も高くなっており、「時々意識して購入している」を合わせた『意識して購入している』人は、一般・保護者で約9割、大学生で約8割となっています。

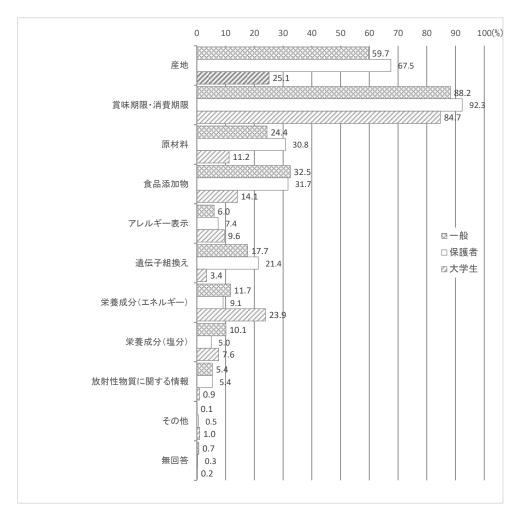
■ いつも意識して購入している人(推移)(食品を購入するときに表示を参考にする人)

【一般十保護者】



「いつも意識して購入している」人の割合は上昇傾向にあり、今回調査では7割以上と なっています。 ■ 特に何を意識して購入していますか。複数回答(「いつも意識」・「時々意識」回答者)

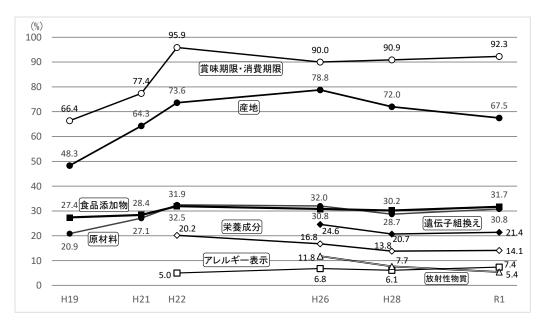
N:一般956人 保護者5,641人 大学生581人



(「放射性物質に関する情報」は、食品の表示対象ではありませんが、平成23年3月に発生した福島第一原子力発電所事故をきっかけに放射性物質に関する情報を掲示(表示)する店舗もあることから、その意識を把握するため、アンケート選択肢に加えています。)

■ 特に何を意識して購入していますか。(推移)

【保護者】



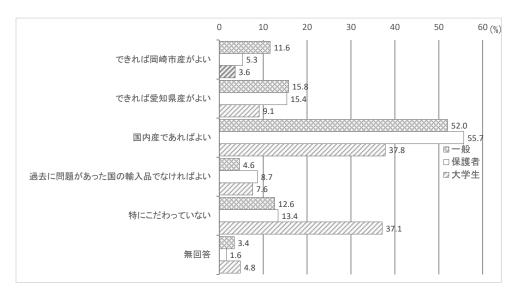
「賞味期限・消費期限」が最も高く、8割以上の人が確認して購入しています。「産地」は減少傾向にあり、その他は3割台以下の水準で横ばいに推移しています。

(2) 野菜の産地

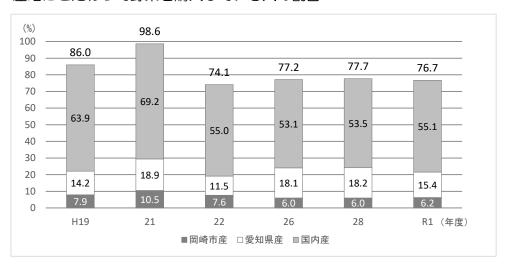
■ 野菜を購入する際、産地にこだわっていますか。

単数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人



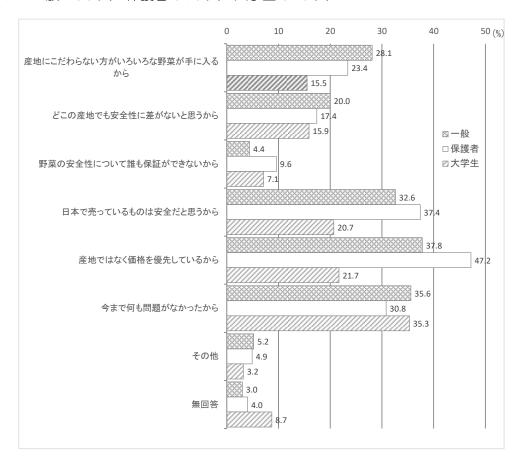
■ 産地にこだわって野菜を購入している人の割合



■ 産地にこだわらない理由

複数回答(「特にこだわっていない」回答者)

N:一般 135人 保護者 816人 大学生 309人

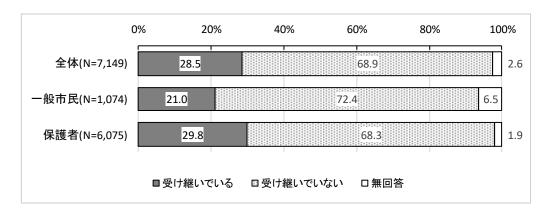


野菜を購入する際の産地へのこだわりについては、「国内産であればよい」が最も高く、「できれば岡崎市産がよい」は1割台以下の水準となっています。また、大学生では「特にこだわっていない」が3割台と高くなっています。

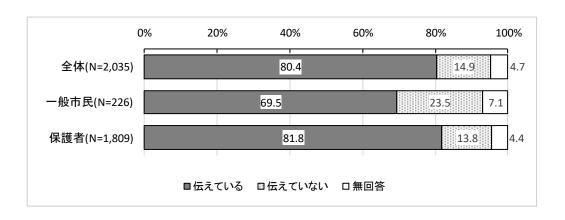
産地にこだわらない理由は、一般・保護者では「産地ではなく価格を優先しているから」、大学生では「今まで何も問題がなかったから」がそれぞれ最も高くなっています。 「今まで何も問題がなかったから」「日本で売っているものは安全だと思うから」は回答率の上位を占めており、日本の食の安全性に対して高い信頼感を持っていることがうかがえます。

9 食文化について

■ 地域や家庭で受け継がれてきた料理や味などを受け継いでいますか。 単数回答



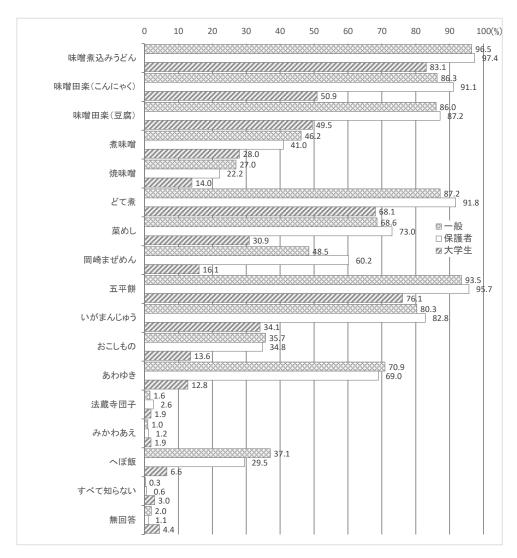
■ 受け継いできた料理や味などを伝えていますか。 単数回答



■ 次の料理や菓子を知っていますか。

複数回答

N:一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人

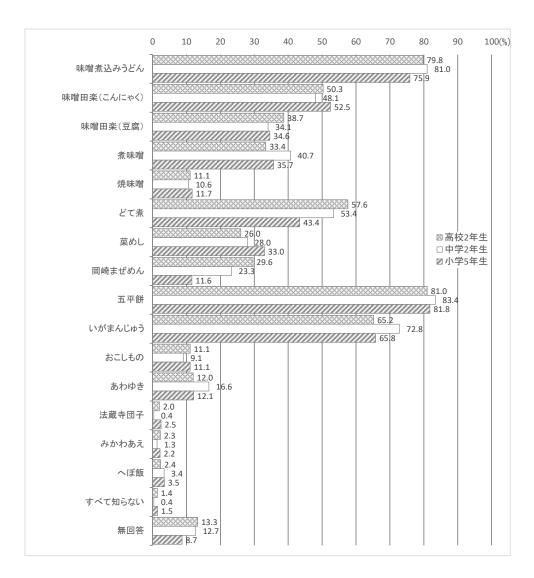


一般・保護者・大学生のいずれにおいても「味噌煮込みうどん」「五平餅」「どて煮」「味噌田楽(こんにゃく)「味噌田楽(豆腐)」「いがまんじゅう」の順で認知度が高くなっています。大学生ではほとんどの料理・菓子の認知度が一般・保護者より低くなっています。

「煮味噌」を知っている人は 41.9% (一般 46.2%、保護者 41.0%) となっており、 大学生ではさらに低い 28.0%となっています。 ■ 食べたことがあるものはどれですか。

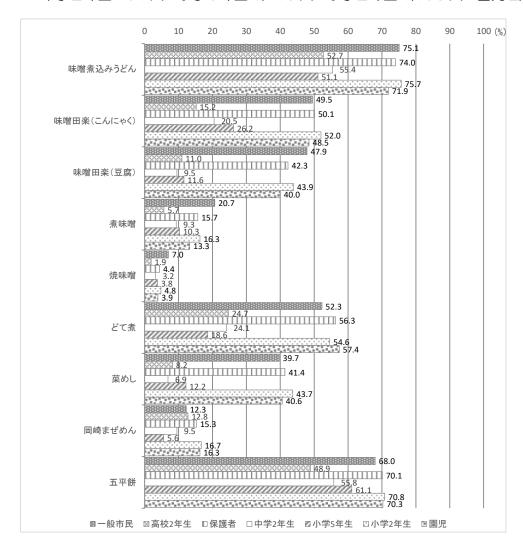
複数回答

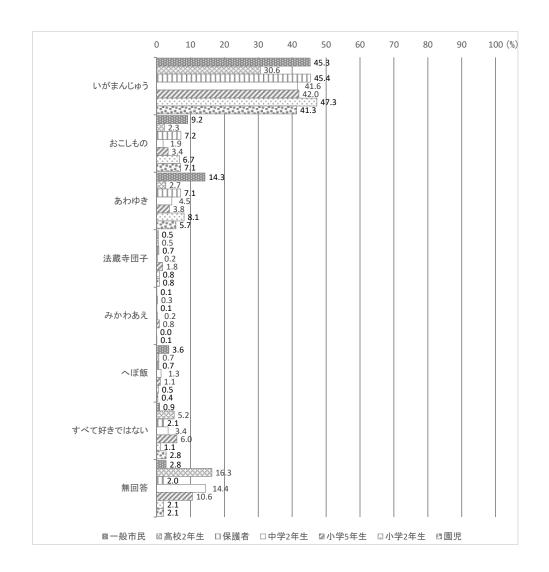
N: 高校2年生736人 中学2年生464人 小学5年生1,418人



食べたことがあるものは、「五平餅」「味噌煮込みうどん」「いがまんじゅう」「どて煮」 「味噌田楽(こんにゃく)」の順で高くなっています。 ■ この中で、あなたが好きな料理や菓子はありますか。 複数回答

N: 一般 1,074 人 保護者 6,075 人 大学生 833 人 高校 2年生 736 人 中学 2年生 464 人 小学 5年生 1,418 人 小学 2年生 1,198 人 園児 2,262 人





好きな料理・菓子は、「味噌煮込みうどん」「五平餅」「どて煮」「いがまんじゅう」などが 高く、これらは「知っているもの」・「食べたことがあるもの」でも上位にあがっています。

その他思い浮かぶ岡崎の郷土の食べ物(主なもの)

料理

味噌料理(赤だし、味噌カツ、おでん、豚汁)

麦味噌

雑煮

野菜の煮物

きしめん

菓子

鬼まんじゅう

おはぎ

その他好きな岡崎の郷土の食べ物(主なもの)

料理

味噌料理(味噌カツ、おでん)

もろこしうどん

菓子

手風琴のしらべ

鬼まんじゅう

八丁味噌まんじゅう

花見だんご

第3次岡崎市食育推進計画 中間評価 令和2年3月

発 行 岡崎市食育推進会議

事務局 岡崎市保健部健康増進課 食育栄養係 岡崎市若宮町2丁目1番地1 岡崎げんき館2階 電話 0564-23-6962